

創政会・公明代表
倉田源右之門議員



● 臨時財政対策債について ● 福祉施策（老老介護）について

その他の質問

- ・28年度の市政運営について
- ・「勝山市地方創生総合戦略」について
- ・クラウドファンディングの活用について
- ・エネルギーと環境のことについて
- ・小さい私の夢について

代表質問

問 ①平成13年度から始まった臨時財政対策債残高は、27年度末で47億7千万円余りとなっており、市債全体の38%をしめている。臨時財政対策債は、元利償還金全額が後年度の地方交付税に算入されるとのことだが、この元利償還金分が別枠の地方交付税になっていないことから、一般財源である地方交付税の1割以上がこの償還に使われていることは問題でないのか伺う。②また、このことが経常収支比率を高める要因の1つになっていないか伺う。

答 ①全国的にみても臨時財政対策債の残高が増え続けている状況のなか、地方交付税の総額が変わらないと、臨時財政対策債分が大きくなる程、それ以外の今までもらえていたものが小さくなることになる。②臨時財政対策債の元利償還金が多くなるということ、経常収支比率を高める要因の一つとなっている。

問 ①勝山市では、核家族化が進み高齢者が1人あるいは老夫婦だけで生活している方が多くなっている。「老老介護」に対する支援策はどのようなものがあるか伺う。

②85歳を超えた老夫婦の家庭で、人工透析で2日に1度病院へ連れて行かなければならないケースの場合、ショートステイや病院への送迎を、在宅介護制度の中で行うといったような支援は出来ないか伺う。

答 ①民生委員と連携し見守りが必要な方を福祉票に挙げ、定期的に見回りをし、定期的に見回りをして頂いている。また、緊急通報システムの設置や救急医療情報キットの配布、屋根雪下ろしへの助成、見守りを兼ねた給食サービス事業などを行っている。家族や民生委員等から相談があった場合は、必要に応じて地域包括支援センターの職員が高齢者宅を訪問して状況の確認等を行っている。②介護が必要なお方には、要介護認定を受けていただき、介護認定により訪問介護や通所介護など必要な介護サービスを受けていただく。ほかにも紙おむつの支給、介護者への支援金の支給や外出のための支援を行っている。

②施設入所となった場合は、透析にかかる送迎については、施設によっても対応は違うようだが、身体障害者手帳による交通費の助成はあるものの、介護タクシーや送迎の付添いは、自己負担となる。透析の方の治療や介護には、経済面や身体面の負担が大きいことが予測されるので、適切にサービスに繋がるよう支援していきたい。

下道恵子議員



● ふるさと納税の返礼について ● 荷物を送る梱包箱について

その他の質問

- ・小中学校の教育内容について
- ①「英語教育」について
- ②「観光教育」について
- ③「選挙教育」について
- ・介護職員のメンタルヘルスについて

一般質問

問 ふるさと納税の返礼は、現在「勝山組曲」と題して、季節ごとの特産物の詰め合わせを送ったり、「ふるさとルネッサンス基金」として積み立て、新体育館や福祉に使わせてもらっている。県外へ出られて、市内に残した親が福祉施設に入所したり、亡くなったりして管理に困っている人たちが、のサービスタとして、市内業者にお願ひし、「空き家や墓地の管理・点検、清掃するサービス」をいれてはどうか。市の考えを伺う。

答 議員ご提案の「空き家見守り、墓地管理サービス」については、遠方に住んでいるため、頻繁に帰郷できず、家や墓地が管理できないという声に応えるサービスであり、ふるさと納税の返礼品として採用する自治体も増加している。市としては、今後、協賛事業者を募集する中で、同様のサービスの提供ができるような事業者や団体等に声をかけ、こうしたサービスの登録を呼びかけていく。

問 春は山菜や、水菜などを家族や親せきを送る家庭は多く、年間を通して、いくつもの梱包箱を使います。また菊やネギなどの野菜は組合でまとめて、箱詰めされ県外へ何万箱も送られている。

そこで、市で統一して梱

包箱に「恐竜」の図柄を印刷し、作成してはどうか。日本全国への観光宣伝の一つとして効果があると思うが、市の考えを伺う。

答 日本全国に勝山市をPRするには、荷物を送る梱包箱も大変有効な広告媒体であると考えます。勝山市から発送する梱包箱のデザインを統一したかどうかの御提案ですが、送りたい物によって、箱の大きさや厚さが異なったり、送る中身の表示や事業者のPRができないという課題もある。一方、現在、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークのロゴマークは申請いただければ、様々な媒体にプリントしていただくことが可能となっている。もちろん、市内事業者等が自ら製作する梱包箱に印刷していただくこともできる。恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークのイメージアップを図るためにも、まずは、その活用を呼びかけていく。

梱包箱のデザインの統一化については、平成22年にヤマト運輸が恐竜骨格をデザインした宅急便の段ボール箱を県と共同で開発し、販売しており、その現状等を調査するとともに、荷物を発送する市内事業者や関係機関のニーズやご意見をお伺いするなど、慎重に研究を進めていく。